

素顔 '88

(9)



ECMWF の大番頭

T. Hollingsworth

今回は、ECMWF 発足時から参加し、今だに生き延びている (L. Bengtsson に次いで最古参とのこと) T. Hollingsworth に話を聞いてみました。

問：まず最初に経歴を聞かせて下さい。

—自分はアイルランド人です。私は、21歳で、大学を卒業し、アイルランド気象局で予報官をやっていました。その後、米国で勉強したく思い、24歳の時(1967年)、MIT へ行きました。指導教官は、N.A. Phillips で、Ed. Lorentz にも教えてもらいました。それから、1年間、オレゴン州立大学で、助教授をやり、1971年に、レディング大学に、英国大学大気モデリンググループが出来たので、それに参加しました。面白いことに英国と云っても、最初は、アイルランド人(私)と、イスラエル人と、英国人(Hoskins)の組み合わせでした。3年半のうちに、ECMWF が発足したのでそこに移りました。その時、Research section に居たのは、L. Bengtsson 唯一人でした。

問：どうして、アイルランドに帰らなかったのですか？

—帰れなかったのです。もし帰ることが出来たのなら、間違いなく帰っていたと思います。というのは、私の家は大変貧しく大学へ行くことが出来ませんでした。そこで、アイルランド気象局の奨学金を貰って大学へ通ったわけです。ところが、大学を卒業して気象局に入り、予報官として訓練を受け始めると、それは、非常に

旧式のものでした。そのころ、アメリカで、新しい気象学が興っているのを私は知っていましたので、淘汰されるようなグループには居たくなかったので、アメリカへ勉強しにゆく決心をしたのです。ところが、気象局の人が駄目だというので、私は、気象台を辞めて行きました。Bates も、3年前に全く同じ様にして MIT に行きましたが、彼の場合は、籍を持ったまま行くことが出来ませんでした。

問：現在、どんなことに興味を持っていますか？

—データ同化作用の問題、特に最初の12時間の誤差の解析に興味を持っています。前に物理過程をやっている時に感じたのですが、物理過程の研究では、あのパッケージをこれに替え、これを又あれに替えと、方法自体が、いわば、Chaotic と云っても良いと思います。自分としては、系統的な方法論で、予報誤差が、どの物理的な要因から来ているのかを決めてゆきたいと思っています。

問：数値予報の将来について聞かせて下さい。

—自信を持って云いますが、着実に進歩してゆくと思っています。5~7日予報が、現在の3日予報程度になると思います。10日~14日の予報に関しては、懐疑的です。一か月予報に関しては、どこのグループも、1月をとると一つか二つの非常に良い一か月予報と、全く駄目な28日の予報といったような状況で、平均すれば全く駄目ということになります。

問：これから何をなすべきと思いますか？

—まず、3日予報程度で、Blocking の onset が、予報出来るようにすることです。3日の段階でこの onset が予測出来れば、predictability は、相当に延びることが期待されます。

次には、climatic drift の問題を研究すべきです。最後は、forecasting-skill の予測の問題です。

問：若い人達に云いたい事は？

—我々の仕事は、非常に exciting な仕事だと思います。社会的にも役に立つ仕事です。良い予報を出すことが出来れば、人命を救うことも出来ます。それに、今後10年間新しい技術が、次から次へと登場して来ます。我々としては、今にも比して一層良く働かなければなりません。とりわけ、新しい衛星観測技術には目をみはるものがあります。これらのデータを同化する仕事は、非常に exciting な仕事です。

問：大気-海洋結合モデルについてはどうですか？

—現在は、ECMWF には一人も海洋学者は居ません。

(p 702 へつづく)

支部長：秋山 勉

常任理事：花房龍男，菊地勝弘，菊地弘明，遠藤辰男

理事：伝法 宏，齊藤 実

会計監査：桜井兼市

幹事長：上田 博

幹事：生本 武，川野 浩，児玉裕二

2) 東北支部

支部長：吉田泰治

常任理事：田中正之，近藤純正，前田紀彦，角田東洋男

理事：内藤勲夫，北村 修，宮平經雄，工藤達也

幹事：佐藤 威，渡部好友，及川 武

3) 中部支部

支部長：黒沢真喜人

常任理事：樋口敬二，田中 浩，竹内利雄，渡辺正雄

理事：鈴木乙一郎（静岡地区），杉山清春（長野地区），中山芳雄（北陸地区）

会計監査：中村正孝

4) 関西支部

支部長：廣田 勇

常任理事：村松久史，文字信貴，松崎正夫，坂田俊夫，岡本利次，日谷道夫

理事：渡辺正雄，中野道雄（以上近畿地方）

正村敬三，宮田賢二（以上中国地方）

山本 晃，森 征洋（以上四国地方）

会計監査：小海 洋

5) 九州支部

支部長：多田利義

常任理事：井田秀治，瓜生道也，滝川雄壮，元田雄四郎

理事：小長俊二，鈴置哲朗

会計監査：守田 治

幹事：田平耕治

6) 沖縄支部

支部長：新田 尚

理事：岡林昌弘，仲吉良功，東江秀明，平岡秀康，恩納則光，仲本正隆，石島 英

中村 功

監事：宮良孫好

幹事：大城繁三，高嶺 武，仲原 満

(p 689 からつづく)

問題は、10日予報に海洋が影響することを示せないことです。ECMWF は、明確な使命（10日予報）を持った組織ですから、それ以外のことをするわけにはゆきません。

問：日本の気象学に対する印象はどうですか？

——日本は、米国に、居留地を持っている、という印象です。とりわけ、Dr. Miyakoda と Smagorinsky には、ECMWF 発足の折に、非常に世話になりました。UCLA の Arakawa さんも、モデルを提供するなど大いに助けてくれました。その他には、中谷先生の雪の結晶の本を覚えています。又、浅井・松野先生を始めとする様々の仕事も良く知っています。今や、気象集誌は、世界の中で最も重要な雑誌の一つになっていると思いま

す。その他、気象庁の数値モデリングや台風の予測に払った努力も大したものだと思います。

問：日本の人に云いたいことは？

——最近は、良く、日本の人を見かけるようになったと思います。数年前と較べると雲泥の差です。これは、非常に良いことだと思います。顔を知っていると、気軽に、手紙も書き易くなります。

☞全身これ ECMWF といった感じの interview でした。ECMWF 創業以来の大番頭といった感じです。しかし、データ同化作用に対する愛着と、その周辺の技術に対する知識の深さはなるほどと思わせるものがあります。日本の状況にも詳しく感じがありました。

(住 明正)